

## 現代口語ビルマ語の「の(だ)」

岡野賢二<sup>†</sup>

### 1 現代口語ビルマ語と日本語の「の(だ)」の類似性

#### (1) 現代口語ビルマ語<sup>\*1\*2</sup>の形式名詞 *hà*

- a. *tû=hà*                      cf. *tû* 「彼(斜格形)」 < *tù* 「彼」  
[3']=HA  
彼の(もの)
- b. *dì=hà* > *dà*  
この=HA                      これ  
これ

#### (2) 動詞文標識-*tè*《叙実法》 / -*mè*《叙想法》と形式名詞-*hà*の融合 名詞化節

- a. *cǎnò wè=tè.*                      /                      *wè=mè.*  
[1<sub>m</sub>]    買う=vs.RLS                      買う=vs.IMP  
私は買った。 / 買う。
- b. *cǎnò wè=tê=hà*                      /                      *wè=mê=hà*  
[1<sub>m</sub>]    買う=attr.RLS=HA                      買う=attr.IRR=HA  
私が買ったもの / 買うもの
- c. *cǎnò wè=tà*                      /                      *wè=hmà*  
[1<sub>m</sub>]    買う=nc.RLS                      買う=nc.IRR  
私が買ったの / 買うの

<sup>†</sup> 東京外国語大学総合国際学研究院 *okanok@tufs.ac.jp*

<sup>\*1</sup> ビルマ語の文体は主として話し言葉として用いられる口語ともっぱら書記のみに用いられ発話されることが基本的にない文語とに分類される。両者の本質的な違いは助詞類や機能語が異なっていることである。本発表で示す現象は口語のみに見られるもので、以下では単に「ビルマ語」と表記することにする。

<sup>\*2</sup> 本発表における音声表記は次の通り。頭子音(阻害音) *p-*, *p<sup>h-</sup>*, *b-*; *t-*, *t<sup>h-</sup>*, *d-*; *k-*, *k<sup>h-</sup>*, *g-*; *c-*[tɕ], *c<sup>h-</sup>*, *j-*[dʒ]; *s-*, *s<sup>h-</sup>*, *z-*; *t̥-*(d̥-) (共鳴音) *m-*, *hm-*[m̩m̩]; *n-*, *hn-*[n̩n̩]; *ɲ-*, *hɲ-*[ɲ̩ɲ̩]; *l-*, *hl-*[l̩l̩]; *y-*, *hy-*[ç]; *w-*, *hw-*[mw] (その他) *h-*, *ʔ-*, *f-*, *r*[r]; 母音(単母音) *-a*[a], *-i*, *-u*, *-e*, *-ɛ*, *-ɔ*, *-o*; (二重母音) *-ai*[-a<sup>i</sup>], *-au*[a<sup>u</sup>] *-ei*[-e<sup>i</sup>], *-ou*[o<sup>u</sup>]; (軽声) *-ă*[-ǎ]; 末子音 *-ʔ*, *-N*: 声調(低平調) *ː* (高平調) *ˑ* (下降調) *˒*。 *q̄-*は口語において *t̥-*の異音である。末子音 *-N*は前の母音(の後半)を鼻音化する。*f-*, *r-*は外来語のみに現れる。頭子音の規則的な有聲化は *ˑ* で示す。なお引用文献の転写は本稿のものに全て直してある。

(3) 限定節標識 + 形式名詞 と 名詞化節 の表す意味

- a. *mǎnêgâ wê=tê=hà*  
昨日 買う=*attr.RLS=HA*  
昨日買ったもの / こと / \*ひと / \*ところ...
- b. *mǎnêgâ wê=tâ*  
昨日 買う=*nc.RLS*  
昨日買ったもの / こと / \*ひと / \*ところ...
- c. *mǎnêgâ là=tê=hà*  
昨日 来る=*attr.RLS=HA*  
昨日来た\*もの / こと / \*ひと / \*ところ...
- d. *mǎnêgâ là=tâ*  
昨日 来る=*nc.RLS*  
昨日来た\*もの / こと / \*ひと / \*ところ...

- 名詞（属格形）や指示詞によって限定される形式名詞 *hà* はいずれも《こと》, 《もの》を表す。ただし 限定節標識 + 形式名詞 の場合, 《こと》となることは若干容認度が落ちる場合があるようだ。

- (4) a. *t<sup>h</sup>ǎmín cεʔ=tè.*  
ご飯 炊ける=*vs.RLS*  
ご飯が炊けた。
- b. *cεʔ=tê t<sup>h</sup>ǎmín yù=k<sup>h</sup>ê=pà=φ.*  
炊ける=*attr.RLS* ご飯 取る=[移動]=[寧]=*vs.IMP*  
炊けたご飯を持ってきなさい。
- c. *cεʔ=tâ yù=k<sup>h</sup>ê=pà=φ.*  
炊ける=*nc.RLS* 取る=[移動]=[寧]=*vs.IMP*  
炊けたのを持ってきなさい。

(いずれも澤田 1992 : p.32)

- 事柄 ; 名詞化節は「主名詞のない関係節 ( headless relative/free relative )」である。
- 名詞化節内の対象の語 ; 「述語の表す事象の参与者のうち、主題の役割を担う無生物を指示する自由関係節」で、名詞化節内には必然的にギャップが生じる。(澤田 1992 : p.34)

## 2 叙述法と叙想法

(5) 藪 (1992 : 570)

《叙述法》(abbr. RLS); ことがらを, 事実として確定的に述べる。  
 《叙想法》(abbr. IRR); ことがらを, 推測や意向として, つまり, 不確定な  
 こととして述べる。

表 1 口語の法助詞

	動詞文標識	限定節標識	名詞化節標識	接続形式
叙実法	=tè	=tê	=tà	=tǎ=
叙想法	=mè	=mê	=hmà	=mǎ=
(否定形式)	=p <sup>h</sup> ú	—	—	—
活写法	=pì	—	? (=pì)	—

(6) 動詞述語文...動詞文標識 (vs.) による文

- a. là=tè.  
 来る=vs.RLS  
 来る / 来た。 《習慣的》 / 《過去の一回の事象》
- b. là=mè.  
 来る=vs.IRR  
 来る (だろう) / 来ただろう / 来よう。 《推量》 / 《意志》
- c. mǎ-là=p<sup>h</sup>ú.  
 not-来る=vs.NEG  
 来ない (だろう) / 来なかった (だろう)。 [上記の対立が中和]

(7) 非動詞述語文...動詞文標識 (vs.) によらない文

- a. dà(=kâ) ?èinhmàun(=pà).  
 これ (=NOM) ヤモリ (= [寧])  
 これはヤモリだ。
- b. dà(=kâ) ?èinhmàun mǎ-hou? =p<sup>h</sup>ú.  
 これ (=NOM) ヤモリ not-そうである=vs.NEG  
 これはヤモリではない。

- (8) a. là=tâ mǎ-hou? =p<sup>h</sup>ú.  
 来る=nc.RLS not-そうである=vs.NEG  
 来なかった / 来たのではない。

- b. *là=hmà mǎ-houʔ=p<sup>h</sup>ú.*  
 来る=*nc.IRR* *not*-*そうである=vs.NEG*  
 来ない / 来るのではない。

- 動詞述語文では否定で《叙実法》と《叙想法》の対立が中和する。名詞化節の否定により法を明示することが可能になる。
  - ただし《叙実法》の場合は表す意味が少し異なる（後述）。

### 3 文の構成素（補文）としての名詞化節

#### 3.1 主語項

- (9) a. [*tù pyó=tà*] *káUN=tè.*  
 [3] 話す=*nc.RLS* 良い=*vs.RLS*  
 彼が話したこと / のは良かった。 《事柄》 / 《対象》
- b. [*tù mǎ-pyó=tà*] *káUN=tè.*  
 [3] *not*-話す=*nc.RLS* 良い=*vs.RLS*  
 彼が話さなかったこと / のは良かった。 《事柄》
- c. [*tù pyó=hmà*] *káUN=tè.*  
 [3] 話す=*nc.IRR* 良い=*vs.RLS*  
 彼が話すこと / のは良かった。 《事柄》 / 《対象》
- d. [*tù mǎ-pyó=hmà*] *káUN=tè.*  
 [3] *not*-話す=*nc.IRR* 良い=*vs.RLS*  
 彼が話さないこと / のは良かった。 《事柄》

- 名詞化節が主語となる場合，述語は何らかの意味で判断を表す。
  - 名詞化節が主語となり得る動詞の例
    - \* *káUN*-「よい」, *s<sup>h</sup>ó*-「悪い」, *lwè*-「易しい」, *k<sup>h</sup>εʔ*-「難しい」, *myá*-「多い」, *né*-「少ない」, *tɛ̀jà*-「確かだ」 ...
- 《対象》を表す=*hmà*節が主語項になる場合，それが何であるのかを発話者はあらかじめ知っていることが含意される。
- 否定の名詞化節が関係代名詞にならない（なりにくい）のは，生じ（てい）ないことに対する判断を下すことが普通はできないからだと考えられる。

### 3.2 目的語項

- (10) a. *cǎnò ʔǎk<sup>h</sup>û pyó=tà/=hmà=kò tètèc<sup>h</sup>àjà ná-t<sup>h</sup>àun=pà=φ.*  
 [1<sub>m</sub>] 今 話す=nc.RLS/=nc.IRR=ACC 確実に 聞く=[寧]=vs.IMP  
 私が今話したこと / 話すことをきちんと聞きなさい。
- b. *yè-kú=yâ=hmà=t<sup>h</sup>εʔ p<sup>h</sup>àun sí=yâ=hmà=kò pò-cauʔ=tè.*  
 泳ぐ=[不可避]=nc.IRR=[比格] 筏 乗る=[不可避]nc.IRR=ACC 余る-怖い=vs.RLS  
 泳ぐことより筏いかだに乗ることの方が、もっと怖い。 (大野 1984 : p.176)
- c. ... *ʔǎyébò-kèzèyé-ʔǎkùʔǎni=twè pò=pí lò=ʔaʔ-nè=tétè*  
 緊急-援助-協力=PL 余る=[並立節] 必要だ=[当為]-いる=[まだ]=vs.RLS  
*s<sup>h</sup>ò=tà twê=tè=lô di=ʔǎp<sup>h</sup>wê=yê ʔǎsìyìngànzà-t<sup>h</sup>é=hmà*  
 言う=nc.RLS 会う=vs.RLS=QUOT この=組織=GEN 報告書- ~中=LOC  
*p<sup>h</sup>òpyâ-t<sup>h</sup>á=pà=tè.*  
 記述する-おく=[寧]=vs.RLS  
 ... さらなる緊急援助が必要であるということが(見て)分かったと、この組織  
 の報告書の中に記述してありました。 (RFA 2007.7.3)

- 名詞化節が目的語項であるとき「ほとんどの場合、真実の事柄を表す」(澤田 1999 : p.29)

- 名詞化節が目的語項となる動詞の例 (対格標識=kòが現れる場合の動詞)
  - \* *twê*-「会う, 見かける」, *cî*-「見る」, *myìn*-「見える (自発的)」, *cá*-「聞こえる (自発的)」, *tî*-「知っている」, *yòun*-「信じる」, *k<sup>h</sup>ànbyín*-「耐える」, *seiʔ-s<sup>h</sup>ó*-「怒る」, *sóyèin*「気にかける」(*hmà*節)
- 前が *s<sup>h</sup>ò=tà=kò*「(と)いうことを」のケース
  - \* *mê(twá)*-「忘れ(去)る」, *dǎdî-yâ*-「思い出す」, *mé*-「訊ねる」, *pyó*-「話す」, (*myìntwê*-「見る」)

### 3.3 その他

- (11) a. *tù nàìngànjá mǎ-yauʔ=tà cà=pì.*  
 [3] 外国 not-至る=nc.RLS 経つ=vs.INC  
 彼/彼女はしばらく外国へ行ってない。

- b. *cămâ myămə-zà lèlà=tà c<sup>h</sup>au?-hni?=lau? hyí=pì.*  
 [1<sub>f</sub>] PLN-文字 研究する=*nc.RLS* 6- ~年=約 ある=*vs.INC*  
 私は6年くらいビルマ語を研究している。 (いずれも澤田 1999 : p.29)

- (12) a. *tù mǎnɛ?p<sup>h</sup>àn màunmàun=nê ?ǎlè-twá=hmà pyò=tè.*  
 [3] あした NAME=COM 遊び-行く=*nc.IRR* 楽しむ=*vs.RLS*  
 彼はあしたマウンマウンと遊びに行くので、楽しい。
- b. *tù mǎnɛ?p<sup>h</sup>àn màunmàun=nê ?ǎlè-twá=hmà pyò=mè.*  
 [3] あした NAME=COM 遊び-行く=*nc.IRR* 楽しむ=*vs.IRR*  
 彼はあしたマウンマウンと遊びに行くので、楽しいだろう / ~行ったら、楽しいだろう。
- c. *tù mǎnɛ?p<sup>h</sup>àn màunmàun=nê ?ǎlè-twá=yìn pyò=mè.*  
 [3] あした NAME=COM 遊び-行く=[仮定節] 楽しむ=*vs.IRR*  
 彼はあしたマウンマウンと遊びに行ったら、楽しいだろう。

(13) 状況説明の *tà*節 (澤田 1992)

- a. *hlè hmà-t<sup>h</sup>á=tà mǎ-là=té=lô.*  
 小舟 注文する-おく=*nc.RLS* not-来る=[まだ]=[理由節]  
 舟をたのんでおいたのが、まだ来ないので。 (Okell 1969 : p.416)
- b. *t<sup>h</sup>ógwín-t<sup>h</sup>ó=tà yìywèjɛ? hnǎ-c<sup>h</sup>ɛ? hyí=tè.*  
 入墨-込む=*nc.RLS* 目的 2-点 ある=*vs.RLS*  
 入墨を入れる(のは)目的が二つある。 (大野 1986 : p.217)

### 3.4 受け身文

- (14) a. *kòsò=kò kò?é(=kà) yai?(=lai?)=tè.*  
 NAME=ACC NAME(=NOM) 殴る(=[適時])=*vs.RLS*  
 コーソーをコーエーが殴った。
- b. *kòsò=hà (kò?é=)?ǎ-yai? k<sup>h</sup>àn(=lai?)=yâ=tè.*  
 NAME=TOP (NAME'=)NMLZ-殴る 受ける(=[適時])=[不可避]=*vs.RLS*  
 コーソーは(コーエーに)殴られた。
- c. *kòsò=hà (kò?é) yai?=tà k<sup>h</sup>àn(=lai?)=yâ=tè.*  
 NAME=TOP (NAME) 殴る=*nc.RLS* 受ける(=[適時])=[不可避]=*vs.RLS*  
 コーソーは(コーエーに)殴られた。
- d. *kòsò=hà (kò?é=)yai?=tà k<sup>h</sup>àn(=lai?)=yâ=tè.*  
 NAME=TOP (NAME'=) 殴る=*nc.RLS* 受ける(=[適時])=[不可避]=*vs.RLS*  
 コーソーは(コーエーに)殴られた。 (いずれも岡野 2009 : より)

(15) 身体部位の受け身

a. kòsò=hà c<sup>h</sup>ìdau?-(?ǎ-)nín k<sup>h</sup>àn(=lai?)=yâ=tè.

NAME=ACC 足-(NMLZ-)踏む 受ける(=[適時])=[不可避]=vs.RLS

コーソは足を踏まれた。

b. ??kòsò=hà hlâhlâ=yê= c<sup>h</sup>ìdau?-?ǎ-nín k<sup>h</sup>àn(=lai?)=yâ=tè.

NAME=TOP NAME=GEN= 足-NMLZ-踏む 受ける(=[適時])=[不可避]=vs.RLS

コーソはフラフラに足を踏まれた。

c. kòsò=hà hlâhlâ c<sup>h</sup>ìdau? nín=tà k<sup>h</sup>àn(=lai?)=yâ=tè.

NAME=TOP NAME 足 踏む=nc.RLS 受ける(=[適時])=[不可避]=vs.RLS

コーソはフラフラに足を踏まれた。

d. kòsò=hà hlâhlâ=yê= c<sup>h</sup>ìdau? nín=tà k<sup>h</sup>àn(=lai?)=yâ=tè.

NAME=TOP NAME=GEN= 足 踏む=nc.RLS 受ける(=[適時])=[不可避]=vs.RLS

(同上)

(いずれも岡野 2009 : より)

- 能動文 (14)a は「殴った」結果を含意しないが、受け身文 (14)b ~ d は結果を含意する、すなわち *tà* 名詞化節は真となる。
- 受け身文の *tà* 名詞化節は、その他の *tà* 名詞化節と異なり、主語項が属格標示で現れることがある。このとき、(15)d のように属格句が動詞 + *tà* に隣接していない場合も容認される。

## 4 「のだ」文

- 名詞化節が述語となる文。
  - 「名詞化節が単独で文として用いられたもの」「先に話された文や、眼前の出来事・状況に対して、理由や背景説明などを付け加える」「日本語に訳す際は、「...のだ etc.」「...んだ etc.」とすれば間違いない」(澤田 1998 : p.30)
  - 「*tè* の”名詞化形”(9 課) *tà* を文末に置くと、日本語の「~のです」「~のだ」に近い意味になります。」(加藤 1998 : p.88)
  - 「日本語のいわゆる「~のだ」文にあたる」(岡野 2007 : p.128)
- 熊谷 (2009 : p.41)
  - 新情報：「主題」が現れない文では、文全体が、「主題」が現れる文では、主題を除く部分(題述)が「新情報」となる。 / 「主題」、「題述」をあらわすものとして、主語につける副助詞の *-hà*、*-s<sup>h</sup>òtà* がある。 / 文末に強調を表す後置詞 *-pé* が現われる傾向がある。

- 焦点：V-tà/V-hmà以外に「新情報」が含まれる。 / 文末以外に強調を表す後置詞-péが現われる傾向がある。
- 帰結：「先行する発話内容に対する帰結」を表す。 / 「必要条件」を表す接続助詞-hmâ、「仮定・条件」を表す接続助詞-yìn、「理由」を表す接続詞 dàjâUNが現れる傾向がある。

ただし談話の初めには現れにくい傾向があり，単に「新情報」とするだけでは不十分か。（修辞法として談話の先頭に現れることがあるが，この場合は本来「先行する発話内容」が直後に現れることが強く期待される）  
後置詞-péが現れる位置に焦点がある，と考えられないか。帰結の場合も文末に-péが現れることがある。

(16) 新情報

- a. nàìngànjá=kâ=sei?pyìnjà-hyìn=twê=yê ?às<sup>h</sup>ò=?ăyâ=kâtô yau?cá-lé=nê  
 外国=ABL=心理学者=PL=GEN 見解=[基づき]=[対比] 男-DIM=COM  
 méìngǎlé=yê ?ăpyàn?ăhlàn-sei?wìnzáhmû=**hà** tîdâsâ-?ăywè=kâ  
 女の子=GEN 交互-興味を持つこと=TOP 物心つく年頃=ABL  
 sâ=tè=lô pyó=câ=**tâ**=pé.  
 始まる=vs.RLS=QUOT 話す=PL=nc.RLS=[強調]

海外の心理学者たちの見解に基づけば，男の子と女の子が互いに興味を持ち始めるのは，物心つき始める頃であると言われる。（熊谷 2009 : p.27）

- b. lù s<sup>h</sup>ò=**tâ** tǎsòuntǎ?ú=kò dì=lò-?ăcáUN?ăcò=nê  
 人 云う=nc.RLS 誰か=ACC この=ESS-因果=INSTR  
 hyínpyâ=yâ=**hmâ**.  
 説明する=[不可避]=nc.IRR

人というものは，誰かに対してこういった因果で説明しなければならないのだ。（ibid : p.28）

- c. ?íngǎlei?=kâ lu?la?yé mǎ-pé=hnàìN=p<sup>h</sup>ú s<sup>h</sup>ò=tà dǎgè  
 イギリス=NOM 独立 not-与える=[可能性]=vs.NEG 云う=nc.RLS 本当  
 pyó=**tâ**, ?ăhmàn pyó=**tâ**. jǎpàn=kâ lu?la?yé pé=mè  
 話す=nc.RLS 真実 話す=nc.RLS 日本=NOM 独立 与える=vs.IRR  
 s<sup>h</sup>ò=tà ?ălǎgá pyó=**tâ**.  
 云う=nc.RLS 只 話す=nc.RLS

イギリスが独立を与えられない，というのは本当のことを言ったのだ，真実を言ったのだ。日本が独立を与えるというのは，でまかせを言ったのだ。（ウェブサイト <http://shweamyutay.com/>）



d. ʔǎhouʔ=kò t<sup>h</sup>ouʔ=pyiʔ=t<sup>h</sup>à, mǎ-tí=p<sup>h</sup>ú=lá.  
 本当=[強調] 出す=思い切り]=nc.RLS not-知る=us.NEG=Q

本当に追い出したんだ，知らないのか？

( Okell 1969 : p.425 )

(17) 焦点

a. ʔǎtò=pé kùni=pà=φ hyìn, cǎmâ=yê mwénê-yǎdǎyà=ʔǎtwɛʔ\*<sup>3</sup>  
 かなり=[強調] 協力する=[寧]=us.IMP [寧] [1<sub>f</sub>]=GEN 誕生日-厄払い=[~ため]

dì=tǎ-k<sup>h</sup>ú=pé càn=tê=tà.

この=1-CLF 残る=[もう]=nc.RLS

ちょうどよかった，手伝ってよ。私の誕生日の厄除けのために，この一つ（の作業）だけ残っているの。

( 熊谷 2007 : p.29 )

b. dì pyàn-yauʔ=hmâ=hmâ sá=yâ=hmâ.

ここ 返る-至る=[必要条件]=[強調] 食べる=[不可避]=nc.IRR

ここに帰って来てはじめて，食べられる。

( Okell 1969 : p.356 )

(18) 帰結

a. ʔǎt<sup>h</sup>é=kâ lâgâ t<sup>h</sup>ouʔ=pé=yìn ʔálóun cènaʔ-twá=hmâ=p<sup>h</sup>é.  
 社長=NOM 月給 出す-与える=[假定節] すべて 満足する-行く=nc.IRR=[強調]

社長が月給を支払えば，みんな納得するのだ。

b. dàjàun cǎnò sózó pyàn-là=k<sup>h</sup>ê=yà=tà.

だから [1<sub>m</sub>] 早く 返る-来る=[移動]=[不可避]=nc.RLS

だから，私は早々に帰ってこなければならなかったのだ。

(19) 否定の焦点《叙実法》

a. cǎnò/k<sup>h</sup>ǎmyá=kò/dàjàun/mǎnêgâ pyó=tà mǎ-houʔ=p<sup>h</sup>ú.

[1<sub>m</sub>]/[2<sub>m</sub>]=ACC/だから/昨日

話す=nc.RLS not-そうである=us.NEG

私が / あなたに / だから / 昨日，話したのではない。

b. cǎnò/k<sup>h</sup>ǎmyá=kò/dàjàun/mǎnêgâ mǎ-pyó=p<sup>h</sup>ú.

[1<sub>m</sub>]/[2<sub>m</sub>]=ACC/だから/昨日

not-話す=us.NEG

私が / あなたに / だから / 昨日，話さなかった。

c. ?cǎnò/?k<sup>h</sup>ǎmyá=kò/dàjàun/?mǎnêgâ mǎ-pyó=tà.

[1<sub>m</sub>]/[2<sub>m</sub>]=ACC/だから/昨日

not-話す=nc.RLS

?私が / ?あなたに / だから / ?昨日，話さなかったのだ。

(20) 否定の焦点《叙想法》

\*<sup>3</sup> 熊谷の原文では yádá「厄除け」としているが yǎdǎyàの誤りではないかと思われる。

- a. *cǎnò/k<sup>h</sup>ǎmyá=kò/dàjàUN/mǎnɛʔp<sup>h</sup>àn pyó=hmà mǎ-houʔ=p<sup>h</sup>ú.*  
 [1<sub>m</sub>]/[2<sub>m</sub>]=ACC/だから/あした 話す=nc.IRR not-そうである=vs.NEG  
 私が / あなたに / だから / あした , 話さない / 話すはずがない。 否定の焦点が  
 《叙実法》の場合と一致しない?
- b. *cǎnò/k<sup>h</sup>ǎmyá=kò/dàjàUN/mǎnɛʔp<sup>h</sup>àn mǎ-pyó=p<sup>h</sup>ú.*  
 [1<sub>m</sub>]/[2<sub>m</sub>]=ACC/だから/あした not-話す=vs.NEG  
 私が / あなたに / だから / あした , 話さない。
- c. \* *cǎnò/k<sup>h</sup>ǎmyá=kò/dàjàUN/mǎnɛʔp<sup>h</sup>àn mǎ-pyó=tà.*  
 [1<sub>m</sub>]/[2<sub>m</sub>]=ACC/だから/あした not-話す=nc.RLS  
 ( 私が / あなたに / だから / あした , 話さないのだ。 )
- d. *tù mǎ-pà=hmà cǎnò t<sub>u</sub>wá-mǎ-tàin=hmà.*  
 [3] not-含む=[必要条件] [1<sub>m</sub>] 行く-not-相談する=nc.IRR  
 彼/彼女が入らないのなら , 私は訴えに行かない。

- (21) a. *dà=kâ cǎnò mǎhniʔ=kâ tòcò=hmà wè=k<sup>h</sup>ê=tà(=pà).*  
 this=NOM [1<sub>m</sub>] last.year=PAST PLN=LOC buy=[過去]=nc.RLS(=[寧])  
 これは / が , 私が昨年東京で買ってきたものだ。 (もの)
- b. *dà=kò cǎnò mǎhniʔ=kâ tòcò=hmà wè=k<sup>h</sup>ê=tà(=pà).*  
 this=ACC [1<sub>m</sub>] last=PAST PLN=LOC buy=[過去]=nc.RLS(=[寧])  
 これを私が昨年東京で買ってきたのだ。 (こと)(岡野 2009 : p.13)

- (22) *cǎnò=kâţô mǎnêgâ tù mǎ-là=lô ʔǎcàjí sáUN-nè=yá=tà.*  
 [1<sub>m</sub>]=[対比] 昨日 [3] not-来る=QUOT 長い間 待つ-いる=[不可避]=nc.RLS  
 私はというと , 昨日彼 / 彼女が来なかったので長時間待っていたのだ。

## 5 焦点後置文 (擬似分裂文)

- (23) a. *cǎnò mǎhniʔ=kâ tòcò=hmà dà wè=k<sup>h</sup>ê=tè.*  
 [1<sub>m</sub>] 昨年=PAST PLN=LOC this buy=[移動]=vs.RLS  
 私は昨年東京でこれを買ってきた。
- b. *{cǎnò} mǎhniʔ=kâ tòcò=hmà dà wè=k<sup>h</sup>ê=tà*  
*{[[1<sub>m</sub>]} 昨年=PAST PLN=LOC this 買う=[移動]=nc.RLS*  
*mǎhniʔ=kâ(=pà).*  
 昨年=PAST(=[寧]).  
 昨年東京でこれを買ってきたのは , 私だ。 (cǎnò「私」が焦点)

c. [cǎnò {mǎhniʔ=kâ} tòcò=hmà dà wè=k<sup>h</sup>ê=tâ]  
 [[1<sub>m</sub>] {昨年=PAST} PLN=LOC これ buy=[移動]=nc.RLS]  
 mǎhniʔ=kâ(=pà).  
 昨年=PAST(=[寧]).

私が東京でこれを買ってきたのは、昨年だ。(mǎhniʔ=kâ「昨年(に)」が焦点)

d. [cǎnò mǎhniʔ=kâ {tòcò=hmà} dà wè=k<sup>h</sup>ê=tâ] tòcò=hmà(=pà).  
 [[1<sub>m</sub>] 昨年=PAST {PLN=LOC} これ 買う=[移動]=nc.RLS 昨年=PAST(=[寧]).

私が昨年これを買ってきたのは、東京(で)だ。(tòcò=hmà「東京(で)」が焦点)(以上, 岡野 2009 : p.12)

- 焦点後置文では前提の事柄が *tà* 名詞化節で表されて非動詞述語文の主題として提示され, 焦点の句は名詞化節から「取り出されて」文全体の述語として現れる。
- 前提の事柄を表す *tà* 名詞化節は常に真。
- 焦点後置文における *tà* 名詞化節は《対象》を表す headless relative ではあり得ない (b., c., d. 参照)

(24) 単なる倒置?

a. mǎunmǎun nauʔ-câ=tâ seʔbéin pyeʔ=lô=tê.  
 NAME 遅れる=nc.RLS 自転車 壊れる=[理由]=[伝聞]

マウンマウンが遅れたのは自転車が壊れたからだって。(澤田 1998 : p.30・改)

b. mǎunmǎun seʔbéin pyeʔ=lô nauʔ-câ=tâ=tê.  
 NAME 自転車 壊れる=[理由] 遅れる=nc.RLS=[伝聞]

マウンマウンは自転車が壊れたから遅れたんだって。

(25) a. dà=kâ cǎnò mǎhniʔ=kâ tòcò=hmà wè=k<sup>h</sup>ê=tâ(=pà).  
 this=NOM [1<sub>m</sub>] last.year=PAST PLN=LOC buy=[過去]=nc.RLS(=[寧])

これは / が, 私が昨年東京で買ってきたものだ。 (もの)

b. dà=kò cǎnò mǎhniʔ=kâ tòcò=hmà wè=k<sup>h</sup>ê=tâ(=pà).  
 this=ACC [1<sub>m</sub>] last=PAST PLN=LOC buy=[過去]=nc.RLS(=[寧])

これを私が昨年東京で買ってきたのだ。 (こと)(岡野 2009 : p.13)

## 6 従属節の要素としての名詞化節

(26) cǎun 《原因・理由》

a. dǎgè=lô pìnbán=hlâ=tâ=cǎun t<sup>h</sup>íp<sup>h</sup>ù=kâ myeʔsí hmeiʔ=pí  
 本当=QUOT 疲れる=[甚だしさ]=nc.RLS=[原因] NAME=NOM 目 目を閉じる=[並立]

*pɛʔlɛʔ ʔeiʔ-nè=tà p<sup>h</sup>yiʔ=tè.*

仰向け 寝る-居る=*nc.RLS* 繫辞=*vs.RLS*

本当にくたくただったので、ティーブーは目を閉じて、仰向けになって寝ていたのである。  
(『カヤーの民話』 p.94)

b. *kauʔ-caiʔ-c<sup>h</sup>ín=hmà t<sup>h</sup>ǎmèin-ʔauʔ-ná hyûN pè=hmà=câUN*  
田植え=LOC 巻きスカート-~下-~近く 泥 汚れる=*nc.IRR*=[原因]

*taʔ=hnàin=tǎ=lauʔ k<sup>h</sup>aʔtòdò wuʔ=câ=tè.*

できる=[可能性]=*attr.RLS*=[程度] 短く 着る=*PL=vs.RLS*

田植えではタメインの下のあたりが泥で汚れるだろうから、みなできるだけ短く穿いた。  
(『乙女』 p.107)

(27) *mô(lô)* 《理由》

a. *laiʔ=tê=ʔǎk<sup>h</sup>à s<sup>h</sup>inbyù=kâ myàNmyàN-cí t<sup>h</sup>wá=tâ=mô*  
従う=*attr.RLS*=時 白象=NOM 速く-AUG 行く=*nc.RLS*=[理由]

*dì=méinmâ=kâ mǎ-hmì=p<sup>h</sup>ú.*

この=女=NOM *not*-間に合う=*vs.NEG*

後を追った時、白象があまりに速く行ったので、この女は追いつけなかった。

(『カヤーの民話』 p.17)

b. *cǎnò k<sup>h</sup>ǎlé cáUN pò=yâ=hmà=mô dìnê yóUN néné*  
[1<sub>m</sub>] 子ども 学校 送る=[不可避]=*nc.IRR*=[理由] 今日 職場 少し

*nauʔ-câ=mè, k<sup>h</sup>ǎmyà.*

遅れる=*vs.IRR* [寧]

私、子どもを学校に送っていかなければならないので、今日は職場に行くのが少し遅れます。  
(岡野 2007 : 62)

(28) *câUN* 《原因・理由》と *mô(lô)* 《理由》の違い

a. *cǎmâ yauʔcá=câUN tòdò douʔk<sup>h</sup>â-yauʔ=tè.*

[1<sub>f</sub>] 夫=[原因] かなり 災難に遭う=*vs.RLS*

私は夫のせいでかなり酷い目にあった。

b. \**cǎmâ yauʔcá=mô tòdò douʔk<sup>h</sup>â-yauʔ=tè.*

[1<sub>f</sub>] 夫=[理由] かなり 災難に遭う=*vs.RLS*

(私は夫なので、かなり酷い目にあった。)

c. *cămâ bǎmâmâ=câUN s<sup>h</sup>élei? mǎ-tau?<sup>h</sup>ú.*

[1<sub>f</sub>] ビルマ女性=[原因] 葉巻 *not-飲む=vs.NEG*

?私はビルマ女性のせいで、たばこを吸わない。

b. *cămâ bǎmâmâ=mô s<sup>h</sup>élei? mǎ-tau?<sup>h</sup>ú.*

[1<sub>f</sub>] ビルマ女性=[理由] 葉巻 *not-飲む=vs.NEG*

私はビルマ女性なので、たばこを吸わない。

- *câUN* 《原因・理由》は名詞のみ，*mô(lô)* 《理由》は命題内容を取る
- 名詞化節の後ろに *câUN* 《原因・理由》や *mô(lô)* 《理由》が現れる際の違いについては、今のところ不明。
  - (大野 1983 : p.181-2) 「*=tà=nê* ” “*=tà=câUN* ” 「*=lô*同様，理由<～だから>，または原因<～なので>を示す助詞。*=tà=nê =tà=câUN*の*=tà*は，終助詞*=tè*の名詞形である。」

(29) *=nê* 《具格》

a. *ʔǎtàn cá=yâ=tà=nê nau?<sup>h</sup>kò hlê-cì=lai?<sup>h</sup>tè.*

音 聞こえる=[不可避]=*nc.RLS=INSTR* 後ろ=ALL 振り向く-見る=[決然]=*vs.RLS*

声が聞こえたので，後を振り向いてみた。

(大野 1983 : 181)

b. ( *V=hmà=nê*の例はなし )

cf. *ʔǎtàn cá=yâ=tà=nê dǎbyàindé nau?<sup>h</sup>kò*

音 聞こえる=[不可避]=*nc.RLS=INSTR* 同時に 後ろ=ALL

*hlê-cì=lai?<sup>h</sup>tè.*

振り向く-見る=[決然]=*vs.RLS*

声が聞こえたと同時に，後を振り向いてみた。

- *=nê* 《具格》は *tà*名詞化節を標示するとき，理由を表す。通常は「名詞化節の事柄が起きた直後」というニュアンスを持つ。
- 《理由》の意味で *hmà*名詞化節を *=nê* 《具格》が標示しないのは？

## 7 まとめ

## 略号等

本稿で用いた略号等は以下の通り。

ABL：奪格 (ablative), ABS：絶対格 (absolutive), ACC：対格 (accusative), ALL：向格 (allative), *attr.*：限定節標識 (attributive clause marker), AUG：指大辞 (augmentative), CAUS：理由 (格) (causative (case)), CLF：類別詞 (classifier), COM：共格 (committative), COMP：比格 (comparative), COP：繫辞動詞 (copular verb), DIM：指小辞 (diminutive), DEP：代理 (格) (deputation (case)), ESS：様態格 (essive), EXCL：除外 (格) (exclusive (case)), FUT：未来時 (格) (future time (case)), GEN：属格 (genitive), IMP：要求 (法) (imperative (mood)), INC：生起 (法) (inchoative (mood)), INS：具格 (instrumental), IRR：叙想法 (irrealis (mood)), LOC：所格 (locative), NAME：固有名, *nc.*：名詞化節標識 (noun clause marker), NEG：否定 (法) (negative (mood)), NOM：主格 (nominative), *not*：否定辞 (negative marker) ONM：オノマトペ (onomatopoeia), PAST：過去時 (格) (past time (case)), [寧]：丁寧 (politeness), POSS：所有者 (格) (possessor (case)), PURP：目的 (格) (purposive (case)), Q：疑問助詞 (question particle), QUOT：引用標識 (quotation marker), RLS：叙述法 (realis (mood)), TER：到格 (terminative), TOP：話題標識 (topic marker), *vs.*：動詞文標識 (verb sentence marker), PL：複数接辞 (plural affix), [1]：自称詞, [1f]：自称詞 (女性用語), [1m]：自称詞 (男性用語), [2f]：対称詞 (女性用語), [2m]：対称詞 (女性用語), [3]：他称詞。

このほか [mother], [teacher] 等の表記は、それが特定の人物を指す語であることを示す。この角括弧 [ ] の中にプライム (') が付加されているのは、末尾音節が下降調 (˥) に変化した形式を示す (e.g. [1m'], [teacher'] など)。また文法的な語彙についても角括弧に入れて示してある (e.g. [可能性], [仮定節] など)。

## 参考文献

- 本行沙織. (2009) 「ビルマ語の助辞 *khê* の多義性の分析」. 大阪大学修士論文.
- 加藤昌彦. (1998) 『エクスプレス ビルマ語』. 白水社.
- 熊谷宣樹. (2009) 「現代口語ビルマ語における *-ta\_/-hma\_* 文の機能について」. 東

京外国語大学卒業論文 .

- 倉部慶太. (2009) 「ビルマ語の受動表現 KHAN YA 構文の記述、分類と意味」. 大阪大学卒業論文 .
- Myint Soe. (1999) *A Grammar of Burmese*. Ph.D. Dissertation. Oregon University.
- 岡野賢二. (2007) 『現代ビルマ (ミャンマー) 語文法』. 国際語学社 .
- . (2009) 「ビルマ語の受動表現に関する覚え書き」, 『語研論集』第 13 号, 東京外国語大学語学研究所 .
- . (2009) 「ビルマ語の文」, 「チベット = ビルマ系言語から見た文法現象の再構築 2 : 文の特徴づけと下位分類」第 2 回研究会 (2009.12.06) 発表レジюме, 於東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 .
- Okell, John. (1969) *A Reference Grammar of Colloquial Burmese*. London: Oxford University Press.
- Okell and Allott. (2001) *Burmese/Myanmar Dictionary of Grammatical Forms*. Curzon Press.
- 大野徹. (1983) 『現代ビルマ語入門』. 泰流社 .
- 澤田英夫. (1992) 「現代口語ビルマ語の名詞節標識-ta\_・-hma\_の用法・機能」『言語学研究』11 号, p.25-61 .
- . (1998) 『ビルマ語文法 (2 年次)』.  
(<http://www.aa.tufs.ac.jp/sawadah/burtexts/burgram2.pdf>).
- . (1999) 『ビルマ語文法 (1 年次)』.  
(<http://www.aa.tufs.ac.jp/sawadah/burtexts/burgram1.pdf>).
- Sawada, Hideo. (1994) 'Significance of Pseudo-cleft Construction in Burmese'. *Current Issues in Sino-Tibetan Linguistics*, Edited by Hajime Kitamura, Tatsuo Nishida, Yasuhiko Nagano, The Organizing Committee, The 26th International Conference on Sino-Tibetan Languages and Linguistics 1994, Osaka, p.723-755.
- 藪司郎. (1992) 「ビルマ語」. 『言語学大辞典』第三巻 . 東京 : 三省堂. pp.567-610.

#### 例文出典

- ルードウ・ウーフラ (?) 『カヤーの民話』 (kayaa)
- カンチュン (?) 『乙女たちの知るべき男の事々』 (apyo)

- 大野徹 (1986) 『ビルマ語四週間』より，読み物 (p.194-219)

RFA (Radio Free Asia, Burmese Program) は，発表者の聞き取りによる書き起こしテキスト。

その他インターネット上の情報については，その都度 URL を示した．これらはビルマ語 (文字) で表記された文字資料であり，これを筆者が音韻転写して引用してある。また英字部分はイタリックで英字のまま表記した。